

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム市川理念 私たちは笑顔の絶えない明るく暖かな雰囲気の中で利用者様と共に行動し、個人の能力を最大限に引き出すことで自信を持って頂けるように「心に寄り添ったケア」を提供いたします	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に理念を唱和したり、理念に基づいてのケアが行えるよう会議等で確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関先に理念を掲げ来訪者利用者、誰でもわかるようにしている。家族には入居時、入居後随時説明している。地域の方へは運営推進会議等で説明している。	○ 広報誌を作成し、地域の方や家族等に配布する予定である。
2. 地域との支えあい			
	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の方に出席してもらい運営推進会議を開催したり、町内会の行事等に参加している。その他慰問で地域の方に来ていただき踊り等を披露して貰ったり希望時施設の見学をして頂いている。	○ 認知症高齢者の方の理解を深められるよう、地域住民に説明、紹介していきたいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価への説明会に参加したり、職員へはその内容を報告し、理解に努めている。外部評価の結果を基にスタッフ全員で話し合い、改善が必要なところを検討した。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に外部評価の結果内容やサービス内容等を報告し、意見を頂き、それを基にサービスの改善に努めている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフレットを配布したり、運営等に関して不明瞭なものがあつた場合、相談をしている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方に関して活用を支援し、現在1名成年後見制度を利用している方がいる。	○ まだ、認識不足であるので今後、研修等を参加し理解していただくようにしていく。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、日常的には虐待に関する記事を回覧したり等職員の意識が低下しないよう努めている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族へ契約書の内容パンフレット等を用いて、疑問や不安な点を聞き、それを踏まえて説明している。解約時も退居理由に応じて対応している。	
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から何か意見・不満があった場合には話を聞き、不満が解消できるよう努めている。	
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月本人の様子がわかるお便りを作成したり金銭に関してもおこづかいから使用していいか確認した上で購入し毎月おこづかいの収支を記入、レシートを添付しご家族へ渡している。また、体調不良時は、都度受診の有無を知らせている。	○ 職員の異動に関して今後家族へ知らせていく
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、本人の様子を報告する際に家族より話を聞くようにしている。苦情等の対応は施設内の窓口のほかに外部の窓口があることを説明している。	
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議とカンファレンス会議を開き意見や提案を聞き業務改善、ケアプラン作成等に反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や受診等にあわせた人員配置をしたり必要時にはユニット間を行き来したりして手伝っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えている。離職する場合には、退職する職員と新しい職員と一緒に働く期間を設け申し送りや引継ぎを行い、利用者がなれる期間を設けている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や職員の目標に合わせた内容の研修に参加できるよう勤務の調整を行っている。		
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへ研修に行ったり、地域のグループホーム協議会の活動に参加し、系列施設以外の施設とも交流を図っている。		
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	必要に応じて面談を行ったり、勤務調整で解決できるものは変えたりして働きやすい環境作りに努めている。		
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得を希望する職員にはできるだけ研修等に参加してもらうよう勤務上の配慮をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人・家族の都合に合わせ面談の日時を設定しゆっくり話してもらえよう配慮をしている。		
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の希望に添ったサービスを受けられるよう相談に応じ必要時には他のサービス、事業所等を紹介している。		
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居当初は声かけや居室への訪室を多くし、職員が他の入居者との間に入ってなじみやすい環境をつくっている。なかなかなじめない入居者に関しては、家族へ報告し、必要時は家族の面会を多くしてもらうなど協力してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とするものを活動時間に組み込み一緒にいたり買い物や行事に参加し、楽しんでもらうことで喜びを共有するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	何らかの変化が見られたときには家族へ電話や面会時に報告をし、一緒に対応を考えている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の背景を理解した上で、一人ひとりの状況に応じた説明や報告をしている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間内であれば自由に外出や面会に来て頂けるようにしている。施設内には公衆電話を設置し、自由に掛けられ、自分で操作ができない方には介助をしている。		
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	行える方には、テーブル拭きや食器拭き、掃除を手伝ってもらっている。複数手伝う方がいるので利用者同士がうまく関わりあえるよう必要時には職員が間に入り支援している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合にはお見舞いに行ったり電話をしたり、家族の相談に応じたり等して、退居後のフォローを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、利用者を話している中で思いや意向を確認している。希望を伝えられない。利用者に関しては家族へ意向や思いを聞いている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族からこれまでの情報を収集したり、担当ケアマネージャーや前施設の相談員、看護師などから情報を得ている。入居後も随時本人、家族から情報を集め、把握に努めている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	食事、水分量は毎回チェックし、排泄においても24時間チェックしている。また、入居して1週間は観察シートに本人の状況を記入し、職員全体で把握するように努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人または家族へケアプランについての要望を聞きその上で毎月カンファレンス会議を開きスタッフ全員で話し合い、その中で意見がでた内容を踏まえて作成している。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回プランの見直しを行っている。本人の状況が変化した場合にはその都度作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に1日の様子を残しているほかに申し送りノートを利用して情報を共有している。何かあったときにはカンファレンスを開き日々のケアや介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護ステーションと契約し週1回訪問してもらい、健康状態の把握と指導を依頼している。。急変時には24時間電話にて対応してもらい、必要時には訪問もしてもらっている。また、入院した利用者や利用希望者がいるときは入居可能か一緒に病棟を訪問してもらっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地区の民生委員の方には、ほぼ毎回運営推進会議に参加してもらっている。地区の駐在所には施設の説明を行い理解してもらっている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーやサービス事業者には施設の説明や状況報告を行い、情報交換をしている。		
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、運営やケアの面など総合的にアドバイスしてもらっている。また、成年後見人制度の活用の際に対応して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向にあわせ受診先を決めてもらっている。受診時には職員が付き添い支援している。		
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門病院に受診が必要となった場合には、家族・本人と同行したり状態を説明し、家族へ伝え適切な治療が行えるよう支援している。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションの看護師に週1回健康状態をみてもらいアドバイスを頂いている。急変時には電話相談や協力医療機関への情報伝達など24時間体制で対応してもらっている。		
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	訪問看護ステーション、入院先の医療相談室の相談員や病棟看護師などと連携し家族・利用者の希望に添えるよう対応している。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期の利用者の事例はないが、契約時に看取りに関する指針を説明、終末期におけるアンケートをとり意向を聞いている。		
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員へは、看取りに関する目標を掲げて意識をもってもらっている。協力医療機関との支援の体制は整えている。	○	系列施設全体で看取りのマニュアルを作成中。訪問看護師より勉強会を開催してもらう予定。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居時は本人についての情報を書面と口頭にて提供している。また、退居前にはケアマネージャーや施設相談員に訪問してもらい本人の様子を見ていただいている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	完全個室でありプライバシーは守られている。個人情報とは必要時以外はスタッフルームに保管している。外部（広報誌など）に情報を出す場合には本人・家族に了承を得て使用している。		
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様に選択肢を与える声かけをし自分で決めていただくようにしている。		
49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望や体調に合わせて暮らしてもらっている。消灯は21時だが時間を過ぎても話を聞いたりして対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望時には買い物に行き好みの衣類など購入してきたり家族の協力のもとなじみの美容院などに行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が基本的には行っているが、テーブル拭きや食器の後片付けは利用者に手伝ってもらっている。夕食は職員も一緒に食べている。		
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人希望があった場合は職員が購入したり、家族へ協力していただき持ってきてもらっている。また、一緒に買物にも行っている。		
53	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄があった場合、全員排泄チェック表に記入し、個々の排泄パターンを確認している。汚染時はすみやかに交換し、清潔保持に努めている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日には、本人に確認してから誘導している。入浴は1人ずつ好きな時間にゆっくり入って頂いている。体調不良時などの欠浴時は足浴や清拭を行っている。		
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室、フロアにソファを設置し、自由に休息をとったり、本人のペースに合わせて入眠してもらったりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのできること、できないことを把握し、その人にあった役割（水やり、ごみ捨てなど）をもってもらいそれを支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい程度の金額であれば家族の承諾を得て、本人管理としている。本人管理のお金は自販機でジュースを買ったり公衆電話を使用するのに使っている。		
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一緒にドライブに出かけたり、買い物に行ったりと外出できるよう支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	企画し、2ヶ月に1回程度ランチツアーやドライブツアーに参加できるようにしている。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、自由にかけてられるよう支援している。手紙が読めない利用者へは呼んであげたりお礼の電話がかけられるよう介助している。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	7時から21時まで自由に面会に来ていただいたり、みんなでお茶を飲んだり個々の部屋で過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や研修に参加し、理解を深め拘束は行っていない。危険性のある利用者様に対してはケアの工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは、拘束の1つであると認識し、鍵はかけず、ドアにはセンサーを設置し利用者の行動を把握している。		
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、部屋にいる利用者に対してはこまめに訪室し、声かけをしており夜間は最低1時間ごとに巡回する他に入居者が居室から出てこられた際にわかる場所で業務を行うようにしている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	針やはさみなど一部は預かりとし、本人が使いたいときには職員見守りで使って頂いている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きたときには、当日と翌日の2日間カンファレンスを行い、具体的な対策をたて防止に努めている。2ヶ月に1回防災に関する話し合い、説明を行っている。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習会に参加したり訪問看護師からは勉強会やアドバイスをもらっている。	○	施設にAEDを設置しているが、使用したことがないので定期的にAEDのシミュレーションを行っていく。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	2ヶ月に1回程度の防災に関する訓練やマニュアルの説明、設備の確認などを行っている。地域の方には運営推進会議の中で災害時の協力を得ている。また非常食として缶詰、飲料水を備蓄している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	身体的・精神的変化があったときやケアプランの見直し時期等で十分に家族に起こりうるリスクについては説明し、ケアプランに反映させるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定を行い、数値に少しでも変動あるときは再検、様子観察を行い、回復の様子がうかがわれないときには、訪問看護ステーションへ連絡し、指示を仰ぎ情報を共有している。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方された薬の説明書を保管しいつでも読めるように受診時注意事項をうけた場合は申し送りノートに記入し、職員全員がわかるようにしている。全員のお薬手帳を保管している。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分は自由に摂取できるように2～3種類は準備している。必要に応じて腹部マッサージを行っている。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後入居者一人ひとりの状況に合わせたケアを行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、10時・15時の水分量チェックを行い管理はできている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルにそって周知徹底し季節に応じた感染予防に関する注意事項を掲示し、実践している。毎日外から来たときには手洗い、うがいを徹底している。また、勉強会にも参加している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルを作成し、それにそって管理されている。調理用具、毎日殺菌消毒し、タオルは毎食後殺菌消毒、キッチン周りは常に清潔にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横にはくつろげるスペースとしてテーブルやイスを設置し施設のまわりには花を植えて明るい雰囲気になっている。敷地は7時から21時まで開放している。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から自然の光が差し込みほどよい明るさが提供できている。廊下には季節に合わせた装飾をし、落ち着いた雰囲気になっている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に席につくことができ少し離れたところにはソファを設置したりして思い思いにすごして頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	本人や家族の意向に合わせ、なじみのものを持っ てきていただいたり家具の配置も本人の希望にあ わせ変えている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう 換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	居室は24時間換気を行い、施設内も気温に合わ せ空調を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下、フロア、居室、トイレ、浴室において手す りを設置しており全体をクッションフロアとし段 差のないつくりとなっている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	まぎらわしい飾り付けや掲示物も最小限に抑えわ かりやすくしている。居室がわからない利用者 には入り口にぬいぐるみなどを設置している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動でき るように活かしている	花壇の手入れや窓拭きなど一緒に行ってもらっ ている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	☒ ①ほぼ全ての利用者の ☐ ②利用者の2/3くらいの ☐ ③利用者の1/3くらいの ☐ ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	☐ ①毎日ある ☒ ②数日に1回程度ある ☐ ③たまにある ☐ ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☒ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☒ ①ほぼ全ての利用者が ☐ ②利用者の2/3くらいが ☐ ③利用者の1/3くらいが ☐ ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	☐ ①ほぼ全ての家族と ☒ ②家族の2/3くらいと ☐ ③家族の1/3くらいと ☐ ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	☐ ①ほぼ毎日のように ☒ ②数日に1回程度 ☒ ③たまに ☐ ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ② <u>少しずつ増えている</u> ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ② <u>職員の2/3くらいが</u> ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ② <u>利用者の2/3くらいが</u> ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ② <u>家族等の2/3くらいが</u> ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の健康管理において、少しの変化にも相談できたり、迅速な対応ができる体制が整っている。(系列病院、訪問看護ステーションの協力の下) 広い敷地を活かし、利用者様と一緒に花を植えたり、バーベキューや花火大会などイベントも充実し建物も安全面も考えた造りとなっていてゆったりとした生活が送れるようにしている。